

Japan Children's Cancer Group News Letter

小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました



©かとーゆーこ

第34号
発行日 2025年12月22日
NPO法人
日本小児がん研究グループ
JCCG発行

Gold September 2025特集号 Vol.1

Gold September

世界小児がん啓発キャンペーン

全都道府県163か所のライトアップ&各地の多彩なイベント



9月の夜空をゴールドに

JCCGは、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント「ゴールドセブテンバーキャンペーン」(Gold September)を9月に開催しました。

キャンペーン5年目の今年、初めて全都道府県にライトアップが広がり、163か所の名所がゴールドに照らされました。各地では点灯式や啓発イベントも開かれ、光に込められたメッセージが多くの方に届きました。自治体の協力も一層進み、温かな支援の輪が全国につながっています。2回に分けて特集します。



米子駅前だんだん広場



沖縄サントリーアリーナ



八木山てっぺんひろば



第34号のコンテンツ

◆ゴールドセブテンバーキャンペーン 2025 特集号 Vol.1

- ・ゴールドの光が全国をつなぐ
- ・光のはじまり
- ・メインイベント・プレイベント
- ・キャラクターのゴールドエール



- ・なぜゴールド？
- ・レモネードスタンド
- ・スポーツの応援
- ・全国のライトアップ(北海道・東北・関東)

Gold September公式キャラクター



©326

ゴールドの光が全国をつなぐ



2025年県別ライトアップ・イベント数

06 山形県	2	20 長野県	1	34 広島県	1
07 福島県	5	21 岐阜県	2	35 山口県	1
08 茨城県	4	22 静岡県	5	36 徳島県	4
09 栃木県	1	23 愛知県	3	37 香川県	6
10 群馬県	1	24 三重県	1	38 愛媛県	13
11 埼玉県	8	25 滋賀県	2	39 高知県	1
12 千葉県	2	26 京都府	7	40 福岡県	10
13 東京都	10	27 大阪府	7	41 佐賀県	1
14 神奈川県	20	28 兵庫県	20	42 長崎県	1
01 北海道	3	15 新潟県	2	43 熊本県	1
02 青森県	3	16 富山県	7	44 大分県	1
03 岩手県	7	17 石川県	4	45 宮崎県	1
04 宮城県	8	18 福井県	4	46 鹿児島県	1
05 秋田県	1	19 山梨県	1	33 岡山県	2
		30 和歌山県	2	47 沖縄県	6
		31 鳥取県	1		
		32 島根県	4		
		33 岡山県	2		

ゴールドセブテンバーキャンペーンは、2021年に全国13都道府県（北海道、宮城、埼玉、東京、神奈川、新潟、愛知、京都、広島、福岡、佐賀、長崎、鹿児島）、15か所のライトアップでスタートしました。

その後2022年38か所、2023年69か所、2024年126か所と毎年光る施設が増え、2025年は全47都道府県で163か所がゴールドに輝きました。関連イベントも30にのぼります。

患者さんらの「金色の光を見上げることが希望になる」との声を受け、患者団体、病院、関係者らがそれぞれの地域でキャンペーンの意義を説明して協力施設を募り、ひとつひとつ草の根的にライトアップが増えていきました。どのゴールドにも、ライトアップを働きかけたメンバーや快く応じてくださった方々の思いが込められています。



光のはじまり



東寺(教王護国寺)

京都府立医科大学附属病院の医師が、一般社団法人京都仏教会に協力を呼びかけたことがきっかけ。キャンペーン期間のライトアップと小児がん啓発ポスター掲示、チラシ配布にもご協力いただいている。

お子さんが小児がんの治療を経験されているお父様が、「何か少しでも理解や支援につながることができれば」と、勤務する日帰り温泉施設をゴールドで装飾。



おふろの王様町田店



平塚駅南口広場
人魚噴水公園など

湘南ベルマーレフットサルクラブのプレイヤーで、自身もがんと闘いながら小児がんの患者さんやご家族のサポート活動を続けていた久光重貴選手(2020年39歳で逝去)の思いを継ぐイベント「ヒサとともに。」の一環として実現。

小児がんを経験した方が加入し助け合う保障制度を運営するハートリンク共済が、新潟大学医歯学総合病院の医師らと協力し、ライトアップとイベントを企画。子どもたちの交流の機会ともなっています。



新潟市歴史博物館
みなどぴあ

2025年メインイベント

9月23日

大阪市立総合医療センター&オンライン

2025年のキャンペーンテーマ

みんながみんなを支える ~5年の絆 これからの希望~



仁谷千賀医師(左)と松本公一医師



「どこでも万博」を楽しむ子どもたち



藤崎弘之医師(左)と山崎夏緯医師

~みんなの力で実現 万博のプロジェクト例~

2025年のゴールドセプテンバーメインイベントは、「みんながみんなを支える ~5年の絆 これからの希望~」をテーマに、大阪市立総合医療センター内のさくらホールで行われ、入院中の患者さんやそのご家族も参加しました。

松本公一医師 (JCCG企画広報委員長・国立成育医療研究センター) と、仁谷千賀医師 (大阪市立総合医療センター) が司会を務め、同病院の藤崎弘之医師と山崎夏緯医師が、病院独自の取り組みなどを紹介しました。

今年同病院の発案で実現したのが「どこでも万博」。長期入院などで外出が難しい子どもたちが、リモート技術を通じて大阪・関西万博会場をリアルタイムに体験し、現場と交流するプロジェクトです。「行きたいけれど行けない」とあきらめることなく万博を楽しめるよう複数の企業が参画し、会場側ではイタリア館などが協力。子どもたちはテレロボットでパビリオンを遠隔体験しました。関係者らは「皆で工夫し、技術の力も加われば、まだまだできること、いろいろな可能性があると感じた」と話していました。

※大阪・関西万博は、大阪市の人工島「夢洲」で2025年4月13日~10月13日に開催。

~幻想的な光の演出~



バルーンには子どもたちや医師らが思い思いのイラストを描画

屋内でも皆でライトを見上げようと、ランタンバルーンリリースを実施。風船にLEDライトをつけた手作りランタンが、カウントダウンのかけ声に合わせて会場にふわりと浮かびました。幻想的でやわらかい光に一同が見入り、「喜ぶ子どもたちに胸がいっぱいです」と涙を浮かべる参加者もいました。



白血病をテーマにした人形劇も。
(障害児・病弱児理解啓発チーム・
オレンジキッズ)

~とどけ、チアスピリット~

この日のために結成した、関西で活動する芦屋チアダンスラボ、BLUESTARS、SPARKLEの合同チーム



チアチームの元気いっぱいのパフォーマンスには会場全体が沸きました。子どもたちは手拍子をしたり、体を動かしたり、イベント終了時には両者でハイタッチ!チアメンバーは、「応援の気持ちを直接届けられてやりがいを感じた」と話しました。

メインイベント動画



2025年プレイベント

9月9日
オンラインイベント 各地のライトアップ紹介



茨城県の筑波大学附属病院つくば陽子線センターからは、子どもたちが治療を怖がらないよう工夫された装置も紹介

ゴールドセプテンバーが始まった2021年は、9月9日に東京スカイツリー®で点灯式を行いました。以降9月9日を中心にライトアップが広がったため、この日にプレイベントとして各地のゴールドを中継するオンラインイベントを実施しました。

キャンペーン初年度からライトアップだけでなく動画配信による周知にも協力しているNPO法人ぶくぶくばるーんのメンバーが、ゴールドに輝く愛知県の中部電力 MIRAI TOWERを背景に参加。周囲の方に「小児がん啓発のための光」だと説明していることなどを伝えました。

長野県の国宝松本城の神々しい金色には感嘆の声も。松本東ロータリークラブの支援でライトアップがかなったそうです。毎年精力的にライトアップを展開している沖縄県では、沖縄サントリーアリーナ前から手作りキャンドルやチャリティーイベントの模様などが紹介されました。



東京都調布市のアフラックススクエアから、調布花火などさまざまな取り組みを説明するアフラックス生命保険株式会社のメンバー

プレイベント動画



特定非営利活動法人
ぶくぶくばるーん



メイン&プレイベント共催団体

一般社団法人 旭くん 光のプロジェクト

医療・音楽・教育を通じて子どもの幸せをサポート



イベント共催団体

特定非営利活動法人 ぶくぶくばるーん

バルーンアートなどで子どもたちに笑顔を届ける



つばみちゃんとゴールドバンド

キャラクターのゴールドエール！

人気キャラクターも子どもたちの応援に一役買ってくださいました。

東京ヤクルトスワローズのマスコット「つばみちゃん」は、ゴールドリボンナイターとして開催された試合日、しつぽに選手や子どもたちとおそろいのゴールドバンドをつけて球場に。滋賀県彦根市のマスコット「ひこにゃん」は、胸にゴールドのリボンをつけて彦根城内をお散歩。

親しまれるキャラクターがゴールドを身につけていることで、小児がんについて初めて知る方も多いようです。



ひこにゃんとゴールドリボン

なぜゴールド？ 小児がんの啓発カラー

病気に立ち向かい、厳しい治療を頑張っている子どもたちは金のように貴重な宝物だとの思いから「ゴールド」がシンボル色になりました。小児がんと向き合っている子どもたちと、彼らに必要な医療・ケアと研究に光を当てるという意味と、子どもたちの未来が光り輝くようにとの願いもこめられています。

レモネードが照らすGold September

ゴールドセプテンバー期間の、各地でのレモネードスタンド開催も増えてきました。

まだ暑さの残るこの時期、冷たいレモネードはのどをうるおすのにぴったり。爽やかな酸味とやさしい甘さが好評で、小児がん支援の思いも自然に届いているようです。取り組んだ皆さんからも、「やってよかった」との声が多く寄せられました。

~8ホテルで小児がん支援とSDGsに貢献~



三菱地所グループの三菱地所ホテルズ&リゾーツ株式会社は、全国に展開する「ザ ロイヤルパーク キャンバス」全8ホテルで、「レモネードスタンド活動2025」を実施しました。

ザ ロイヤルパーク キャンバス 大阪北浜では、エントランス前で地元のアフタースクールに通う子どもたちとレモネードスタンドを開催。「レモネードいかがですか?」との元気な声が響くと、4車線越し向こう側のビルから「従業員分いただきます」と購入してくださったり、通りがかった作業服の方が財布の中の札を全部寄付してくださったりしたそうです。



大阪北浜の本間貴之総支配人は、「参加のお礼に渡した修了証を『宝箱にしまっているよ』と話してくれるお子さんや、『こういう活動に救われます』とおっしゃる当事者の方に、こちらも力をいたいでいます。これからもレモネードスタンドをアップデートしていきたいですね」と語りました。

子どもたちの様子を笑顔で話す本間総支配人

レモネードスタンド活動とは…アメリカで小児がんにかかる少女が庭先でレモネードを売り、集めたお金を治療研究に寄付したことがきっかけでひろまつた募金活動。“If the life gives you lemon, make lemonade. ~酸っぱいレモンのような苦境が来ても、甘いレモネードをつくれればいい~”という言葉もあり、レモネードは小児がん支援を象徴する飲み物です。



瀬戸内産の規格外レモンや地元農家で栽培されたレモンを活用し、SDGsの推進も。



札幌大通公園では地元の小学4年生青木瑛都(えいと)君が名前を考案した「初恋レモネード」を販売、京都二条では従業員手書きの看板を立てるなど、それぞれのホテルが工夫を凝らしました。



~おなじみ、博多駅前から広がる支援~

福岡を中心活動する患者団体などで構成する「レモネードスタンドinふくおか」による開催は8年目に。近年はゴールドセプテンバーに合わせて9月に開催。ボランティア約100名が参加し、約1700杯を届けました。入院時に仲よくなつたお子さん同士の再会の場にもなっているそうです。



JR博多駅前広場で

～またたく間に1100杯完売～



9月27日、ガンバ大阪のホームパナソニックスタジアム吹田では、同チームが毎年行っている「SDGsmileマッチ」に合わせて、大阪大学サッカーチームとNPO法人おおさかレモネードプロジェクトPilina(ピリナ)によるレモネードスタンドが開催されました。

この日の吹田市の最高気温は約30度。「小児がん支援につながるレモネードスタンドを行っています」「レモネードいかがですか?」との、部員らの熱心な呼びかけに長蛇の列となり、準備した1100杯は試合開始約1時間前に売り切れました。

売り切れ後にテントに立ち寄り、「寄付だけでも」と募金に協力してくださる方もおられました。

～自分たちにできることがまだある～

部員の河端真如(ちかゆき)さんは、「今回のことがきっかけで、日本小児がん研究グループのことや小児がんを支援する取り組みがあることを知り、レモネードスタンドを通していろいろな方とつながることができた。チラシ配布を担当しており、正直『無視されるのかな』と思っていたが、意外と受け取っていただけた。小児がんのことは知られていないだけで、知つてもらいたら支援が広がるのではないかと思った。そのために自分は、自分たちは何ができるだろうか、と今考えている」とやりがいを話してくれました。

同河本陽平さんは「阪大サッカーチームには『愛し、愛されるチームへ』との理念がある。半分大人で半分子どもという自分たちががんばることで社会に発信できることがあるのではないかと考えている」と、今後の活動への展望を語りました。



～みなさんあたたかさ～

この取り組みを中心になって企画したサッカーチーム主将の山下航希さんは、「『がんばって』と応援の声をいただくこともあり、購入してくださる方々が単にレモネードを飲みたいというだけではなくて温かいお気持ちで集まってくれていることが伝わってきた」と、来場者に感謝しました。



～大切な人を思いながら～

ゴールドセプテンバーメインイベント会場(大阪市立総合医療センター)では、NPO法人おおさかレモネードプロジェクトPilinaによるレモネードスタンドが開催されました。

Pilinaは、土井颶大(そうた)さん(高2)が、神経芽腫のため13歳で亡くなった弟の大地くんを思い、同じように病気と向き合う子どもたちの助けになれば、と始めたレモネードスタンド活動です。



「いつもいっしょ」
颶大さん(左)と母
かおりさんは、大地
君の写真と共に会
場に出かけ、存在
を感じながら活動
しているそうです。

レモネードスタンドに興味
を持たれた方は、ぜひ
「JCCGレモスタ」の
Instagramをご覧ください。
実施方法、実施例も詳しく
紹介しています。



スポーツが照らすGold September



阪神タイガースの支援によるファーストピッチ 阪神甲子園球場 vs広島

～全力投球に大きな拍手～

9月6日、阪神タイガースの本拠地：阪神甲子園球場（兵庫県西宮市）で、小児がんを経験した坂牧快莉（かいり）君（小3）と前田悠真（はるま）君（中3）がファーストピッチセレモニーでバッテリーを組みました。

ピッチャーとして快莉君、キャッチャーとして悠真君が登場。「肩が外れるかと思うくらい腕を振った」という坂牧くんの全力投球を、悠真君がしっかりキャッチ。スタンドからは「がんばれよー」という声援や大きな拍手が送られました。「ファーストピッチでここまで温かいムードになるとは」と、球団関係者も驚くほどでした。



冷静にミットを構える前田悠真君



※両写真は阪神タイガース提供

堂々としたピッチングの坂牧快莉君

～最高のバッテリー～

悠真君と快莉君は、試合前にバックネット裏でプロ選手の練習を見学。「スピードが全然違う」「ボールがバットに当たる音が強い」「自分が持ったら重たいバットを軽々と扱っている」と驚きながら見入りました。その後は屋内練習場でマウンドからホームベースまでの実際の距離18.44メートルを測って投球練習に。退院後、夏休み明けから学校に戻ったばかりでまだ体力のない快莉君でしたが何度も投げ込み、悠真君は本番でどんな球も捕れるよう、快莉君の投球のくせを把握しました。悠真君は「野球では先輩と後輩のような、治療を乗り越えてきた同士としても特別な絆を感じました」。練習も本番も見守った球団関係者は「最高のバッテリーですね」と二人を讃えました。



繰り返し練習する悠真君(左)と快莉君

～「4万わかるで！」～



ファーストピッチを終え、晴れ晴れした表情で戻ってくる二人と笑顔で迎える選手ら

阪神甲子園球場は、4万人強の観客で埋め尽くされます。ピッチング前、快莉君に「4万って想像つく？」と尋ねると、「わかるで！1000が40個やろ？」と元気よく即答。9月、治療を終えてようやく戻れた小学校で、3年生はちょうど算数の授業「大きな数」を習ったばかりだったそうです。

マウンドで投げ切り、球場の雰囲気を味わって戻ってきた快莉君に「4万どうだった？」と聞くと、興奮気味に「すごかった！拍手とか声とかがわあっと来て、思っていたの倍以上やった」。

「またみんなといっしょに教室で授業を受けたい」と治療をがんばってきた快莉君に、球場の一人ひとりが「大きな数」の迫力を彼の体いっぱいに教えてくれたようです。

©阪神タイガース



～小児がんをかっ飛ばせ～ 「ゴールドリボンナイター」

主催:ヤクルト球団
協賛:NPO 法人キャンサーネットジャパン(CNJ)

ヤクルト戦・ガンバ戦
の取り組みは
2022年スタート、
今年で4回目!



力投をみせる福澤尚翔君



ゴールドリストバンドを着用し、小児がんの特徴などを説明する中井美穂さん

※写真はCNJ提供

8月30日、小児がんの子どもたちを応援する「ゴールドリボンナイター」が、東京ヤクルトスワローズの本拠地:明治神宮球場(東京都新宿区)で行われました。小児がんの経験者とご家族ら約50人が招待され、球場セレモニーや広島東洋カープとの対戦を楽しみました。

始球式では、福澤尚翔(なおと)君(中1)が、大好きな村上宗隆選手と同じ背番号「55」のユニフォーム姿でマウンドに。力強い投球を披露しました。

尚翔君は、「テレビよりも何倍も大きな声援も、選手の皆さん『ナイスピッチ』と拍手してくれたことも、この日に向けてお父さんと練習してきた時間も、一生の思い出です」と満面の笑み。一方で、「だからといって、治療中15回くらい耐えた注射の痛みも忘れられるわけではない。両方を自分の経験としてこれからもがんばっていきたい」とまっすぐに語りました。

この日ヤクルトの選手たちはゴールドのリストバンドをつけてプレー。バックスクリーンに3本のホームランを放った村上選手が左腕のゴールドをアピールする様子に、小児がんの専門医らが「しげれました。我々も励まされる」と胸を熱くする場面も。

2022年のゴールドリボンナイター初回から企画に携わっているフリーANAウンサーでCNJ理事の中井美穂さんは、「同じがんでも大人と子どもでは治療方法などが違います。皆さんにも小児がんのお子さんに心を寄せていただければ」と球場に呼びかけました。



「SDGsmile マッチ」

主催:ガンバ大阪



9月27日、ガンバ大阪はホームのパナソニックスタジアム吹田(大阪府吹田市)で開催されたアルビレックス新潟戦を特別ゲーム「SDGsmileマッチ～未来の地球にいいパスを。～」とし、小児がん啓発イベントを組み込みました。

交流のある大阪大学医学部附属病院の子どもたちを試合に招待し、大阪大学サッカー部などと連携したレモネードスタンドも開催。試合前のミニステージでは、大植孝治医師(兵庫医科大学病院)らが小児がん支援の重要性やゴールドの意味を説明しました。



①小児がんの理解を呼びかけるステージ



②ハーフタイムには治療支援をアピール

※①②の写真はガンバ大阪提供

大盛況のレモネードスタンド(p6参照)

全国のライトアップ&イベント



小児がんへのご理解ご支援を呼びかけるゴールドライトアップが全国 163 か所に広がりました。啓発イベントも 30 か所で開催。美しい光と、各地域の皆さんそれぞれの思いをお届けします。



「ライトン」はライオンの赤ちゃん。「ライオン」「ライトアップ」「ライトのスイッチをオン!」の文字をぎゅっとまとめた名前です。各地のライトアップを応援するよ♪

北海道



さっぽろテレビ塔

青森



弘前城



八戸市総合
保健センター

岩手

知ることが、守ること。

岩手県では開運橋、龍泉洞などの名所が初ライトアップ!



開運橋



岩手医科大学附属病院



龍泉洞



東北電力(株) 岩手支店

岩手



子どもたちとツリーにゴールドリボンを飾りつける岩手ビッグブルズの
門馬圭二郎選手（左）と中野友都選手（岩手医科大学附属病院）



門馬選手の直筆メッセージ
「一人じゃない！一緒に戦いましょう！」

ライトンレポート#1 「光は照らすと照らし返される」

岩手では岩手医科大学附属病院が中心となり「知ることが、守ること」をテーマに、ライトアップやゴールドリボンツリー展示などを企画。プロバスケットボールBリーグ・岩手ビッグブルズの門馬圭二郎選手と中野友都選手も参加し、子どもたちと交流しました。

きっかけは門馬選手の存在です。門馬選手は一昨年膝に大けがを負い同病院に入院していました。車いすで沈んだ様子の彼を見かけた医師は、胸が締めつけられる思いがしたといいます。しかし、その後の長いリハビリを経て第一線へ復帰。その姿は病気やけがと向き合う子どもたちに必ず希望を届けてくれると考え、参加を依頼しました。

当日、鮮やかな赤のユニフォームに身を包んだ門馬選手と中野選手は、子どもたちと同じ目線にかがみ、声をかけたりハイタッチをしたり。子どもたちは大きな両選手に少しどきどきしながらも目を輝かせ、いっしょにゴールドリボンツリーを完成させました。

門馬選手は自身の入院生活についても語りました。車椅子で転んでコーヒーをこぼしてしまい何もできず絶望したこと。それでも周囲の支えのおかげで再びコートに立てるようになったこと。そして「今度は自分が、治療を頑張っている人を支えたい」と結びました。

同病院の三浦翔子医師は、「ゴールドセプテンバーをきっかけにお声がけしてみて、こんなにも協力していただけることに驚き、医療者も大きなパワーをもらいました。光は照らすと照らし返されると感じました」と、感謝と感動を語りました。



宮城



宮城県立
こども病院



「みんなの思いをつなぎたい」と
生まれたゴールドセプテンバーイヤンペーンのキャラクター。ユニコーン（馬に似た伝説の生き物）と
こぶた（子豚）のペア
でバトン（馬豚）を
つなぐよ。

Gold September
公式キャラクター



東北大学病院



宮城



伊達政宗騎馬像



ミヤテレタワー



パーラー山と田んぼ



仙台スカイキャンドル



← 八木山てっぺんひろば →



秋田



秋田大学医学部附属病院

山形



文翔館



福島



会津鶴ヶ城（若松城）



東北電力福島電力センター
無線鉄塔



福島

準備期間3か月、約200名の思いがキャンドルに！



まちなか広場



ライトンレポート#2 蒼汰君の「好き」・みんなの「好き」が優しく灯る

9月15日、福島市のまちなか広場には約150個の手作りキャンドルが並びました。小児がんの子どもたちを支援する団体「そうたの部屋」主催。

団体設立のきっかけで、白血病のため9歳で旅立った紺野蒼汰君が大好きだったヘラクレスオオカブトや鉄道も描かれています。「子どもが好きなものが灯りとなって応援につながれば」と、福島県立医科大学の医師や学生、福島市内の学童保育に通う小学生ら約200名が制作に参加。子どもたちが何人かでひとつのキャンドルを仕上げたり、ライトアップ当日に興味を持って絵を描いてくださるケースもあったそうです。

キャンドルが放つ優しい光とメッセージに、多くの方が見入っていました。

企画した紺野美香さん(蒼汰君の母)は、「7月から準備を始め、予想以上にたくさんの方のご協力でこの数になりました。当事者になってみなければなかなかわからない小児がんの子どもたちのがんばりやその支援について、少しでも目を向けていただけきっかけになれば」と話しています。



茨城



筑波大学附属病院陽子線治療センター



つくばエキスポセンター

つくば市役所本庁舎

群馬



臨江閣と日本庭園

栃木



栃木県本庁舎 昭和館

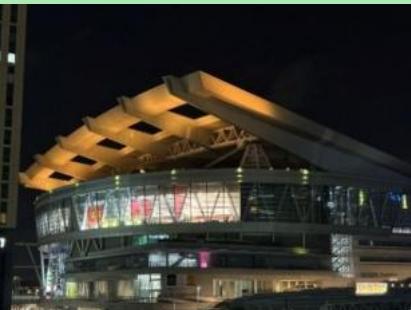


埼玉

スポーツ、文化、レジャー、医療…さまざまな施設がゴールドに！



埼玉スタジアム2002



さいたまスーパーアリーナ



東武動物公園



埼玉県県民活動総合センター



彩の国さいたま芸術劇場



埼玉県立がんセンター



埼玉医科大学国際医療センター



埼玉県立小児医療センター

ライトアップレポート#3 ゴールドに染まる埼玉、思いつく限りの声かけから

埼玉県のライトアップは、スポーツ施設、文化施設、レジャー施設、医療施設…と、さまざまな分野でのご協力が特徴的です。立役者は埼玉県立小児医療センター医事部の岡戸豊さん。院内会議で医師からライトアップの相談を受け、同病院近くのさいたまスーパーアリーナを皮切りに、県の施設や子どもたちが喜んでくれそうな場所、社会貢献してくれそうなところに思いつく限り声をかけたそうです。

岡戸さんは「予想以上に患者さんから『金色の光がきれいで元気が出た』などの反響があり、それが我々医療従事者らの励みにもなっています。今後も広げていきたいです」と抱負を語りました。



千葉



千葉モノレール・セントラルアーチ(千葉中央公園)



東京



東京スカイツリー® ©TOKYO-SKYTREE



東京都立小児総合医療センター

ライトンレポート#4 どこから見ても、あたたかみのあるゴールド

東京スカイツリー®は、2021年から毎年9月9日にゴールドの光を放ち続けています。どの角度から眺めても「小児がん支援の光」だと伝わるよう、てっぺんから足元まで、温かく包み込むような輝きでデザインされた特別なライティングです。今ではGold September のシンボルとして親しまれています。

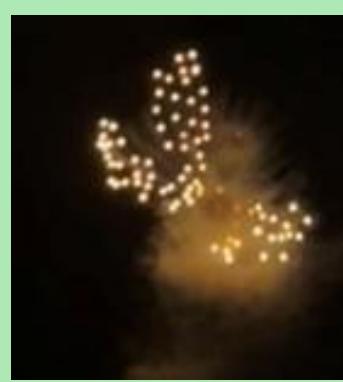


アフラックスクエア

ライトンレポート#5 ゴールドリボンの花火!

よ～く見てみて♪

夜空に黄金のリボンの形の花火が打ち上りました。この日のために花火職人さんが特別にデザイン。会場ではゴールドの意味が説明され、「ほんとだ、リボンだ!」と感嘆の声がもれました。



第40回調布花火
ゴールドリボン型の花火打ち上げ



神奈川



神奈川県立こども医療センター
患者さん手作りランタン



神奈川県立こども医療センター



横浜こどもホスピス うみとそらのおうち



横浜マリンタワー



よこはまコスモワールド「コスモクロック21」



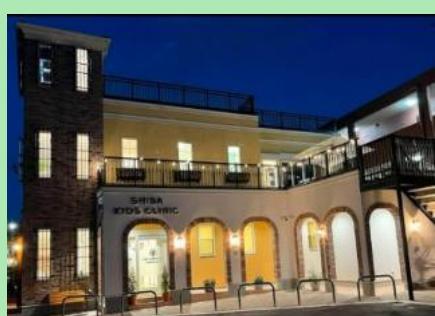
アニヴェルセルみなとみらい横浜



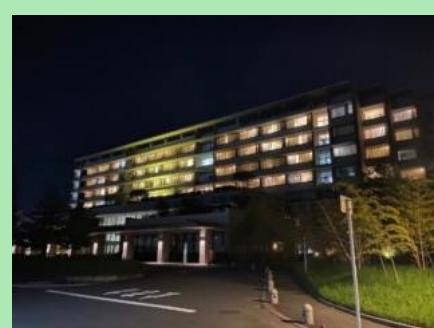
女神橋



横浜ハンマーヘッド



しばキッズクリニック



伊勢原協同病院



象の鼻パーク



おふろの王様 町田店



みんなのレモネードの会事務所

神奈川



小田原城



平塚駅南口広場 人魚噴水公園

このほかのライトアップは次号35号で♪

第34号では北海道・東北・関東地方の
ライトアップを紹介しました。中部～沖縄地
方の美しい光は次の第35号で特集します!



江の島シーキャンドル

湘南モールフィル

ライトレポート#6 ヒサと共に。2025

フットサルF1湘南ベルマーレフットサルクラブとサッカーJ1湘南ベルマーレの9月恒例となった取り組み「ヒサと共に」(p2参照)。ホームタウン(9市11町)の市町と連携し、毎年ライトアップに協力。ホームゲームで選手が金色のユニフォームで試合に臨み、小児がんの勉強会を開催するなど、フットサル選手、サッカー選手、スタッフ、練習生ら総勢2000名以上がベルマーレファミリーとして小児がん支援を掲げています。



ご寄付のお願い

小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

1ヶ月あたり1000円、年間12000円のご寄付で、
がんの子ども1人の治療支援が可能になります。

「未来の新治療開発」(バイオバンクへの細胞保存)、「正確な診断」(中央診断システムの維持)、「大人になるまで見届ける」(長期フォローアップ手帳の確実な配布と運用)。そのために、小児がんの患者さん1人に年間約12000円が必要です。

JCCGは、毎年新たに発症する2500人の子どもの命を守ろうと努力しています。

一人でも多くの子どもたちに
明るい未来をプレゼントするために、
どうかご協力ををお願い申し上げます。



ご寄付はこちらへお願ひします

郵便局・ゆうちょ銀行 郵便振り込み
口座記号 00850-5 口座番号 153506
加入者名 NPO JCCG

JCCG HPより、クレジットカード寄付も可能です

JCCGホームページ



ご寄付のお願い

難病の治療体制を構築し、
難病の治療法を開発するために。



小児がんの種類はとても多くそれなりのばかり。日本では小児がん治療を研究する専門家が少なく、治療開発や支援にあてられる予算も欧米に比べて少ないのが現状です。

難病の治療体制を構築し、最先端で難病の治療法を開発するため、皆様のご支援を必要としています。小児がんの子どもたちのために、ぜひご協力ををお願いいたします。

ご寄付について詳しくはこちら



JCCG 事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目6番35号8階

TEL: 052-734-2182 FAX: 052-734-2183 E-mail: friend@jccg.jp



Special Thanks!

イラスト: かとーゆーこ (<http://katoyuko.sakura.ne.jp/>) コピーライティング: 石黒 佐和子
JCCG 自動販売機デザイン: 有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCGニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

